



青空の下で  
展開されるアツい戦い

7月12日、秩父滝沢サイクルパークBMXコースで、「第6回秩父市長杯BMX大会」が開催されました。全国からエントリーした123人の選手がBMXクラス、ランニングバイククラスにわかれ、白熱したレースを繰りひろげました。

また、昨年のニュージーランド大会に引き続き、オランダで開催される世界選手権に日本代表として秩父市から出場する浅見葵さん（写真前列左）、浅見渚さん（写真前列右）に、秩父市スポーツ振興奨励金の交付式が行われました。



患者さんとふれあって、「看護の心」を理解する

7月12日、市立病院で「第18回ふれあい看護体験」が行われました。看護師志望の高校生11人が参加し、足浴や食事配膳などを体験しました。高校生の皆さんは緊張しながらも、患者さんとコミュニケーションを取ろうと努めていました。参加者の一人は「この体験を通して、看護師になりたいという思いが強くなった」という感想を述べて、看護する喜びを実感したようです。



幻想的で美しい花ハス

7月上旬から8月上旬に見ごろを迎える荒川日野花ハス園では、約6000㎡の園内に11種類のハスの花が咲きます。酔妃蓮、剣舞蓮、ミセススローカムなどの高級種や、約2000年前の地層から種子が発見された大賀蓮という貴重な種類もあります。訪れた人たちは園内に設置された木道を巡って、花を観賞していました。



秩父芸能の祖から引き継ぐ伝統

6月29日、吉田やまなみ会館において、第9回「彦五郎祭」が開催されました。「彦五郎」とは歌舞伎役者初代坂東彦五郎のことで、下吉田井上の出身です。彦五郎は江戸で修行を積み、秩父地方の地芝居の基礎を築いたといわれています。このようなことから毎年、吉田地区で追善公演が行われています。

当日は、大勢の方々が観覧にお越しいただきました。

東日本大震災避難者への心温まるおもてなし



6月8日、久那の「民宿はまだ」で、東日本大震災によって市内に避難された方々のための「絆の集い」が開催されました。今年で4回目となるこの集いは、民宿はまだの深田勝文さん、巴川町会の有志の方が中心となって行い、深田さんのご厚意で料理や飲み物が、避難者の方に無償でふるまわれました。参加した皆さんは交流を深めて、楽しいひとときを過ごしました。



組み立て作業に祭りへの情熱を込めて

7月19日・20日に行われた秩父川瀬祭では、8基の笠鉾・屋台が曳き回されました。それに先立ち、13日には各町会の収蔵庫で笠鉾・屋台が組み立てられました。各町会の有志の皆さんが協力して部材を組み合わせて、勾欄や屋根、装飾品などが取り付けられると、徐々に豪華で立派な笠鉾・屋台の姿が現れました。